

発達障害への対処法について

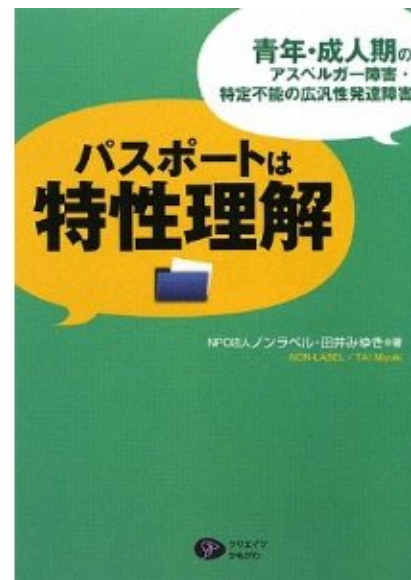
- 「セカンドオピニオン2」シーニュ社

「相談者の約9割が、発達障害の2次障害を統合失調症と誤診された人たちだった」 笠陽一郎Dr



発達障害への対処法について

- 「パスポートは特性理解」田井みゆき クリエイツかもがわ
発達にまったく偏りのない完全な「定型者」は世の中に
一人もいないと考えています



発達障害者への精神医療の現実

	統合失調症	発達障害
薬による改善	必須	一過性、 基本的に薬剤過敏
必要な治療	主に服薬	環境改善や認知改善
鑑別	医師の直感 プレコックス感	生育歴の 聞き取り

発達障害者に手がかかる理由

1)精神医療の被害者たること

- 「精神科セカンドオピニオン2」p251 シーニュ 長嶺DR
- 一次障害:発達障害(薬剤は不要)
- 二次障害:生きづらさから来る、不登校、虐待、PTSD、解離、強迫、うつ、そう、統合失調様症状、アルコール依存(薬剤は最少)
- 三次障害:誤診誤処方による薬剤性統合失調様症状(薬剤は減薬)

→それでも日本の制度では、医療につながらない障害者に、支援は無い。加害者に頼らざるを得ない。

発達障害者に手がかかる理由

2) 知的能力がむしろ高かったこと

- 「パスポートは特性理解」田井みゆき クリエイツかもがわ p13
- 発達障害とは、以下の広汎性発達障害を指すものとします
- 1) 特定不能の発達障害 (PDDNOS)
- 2) アスペルガー障害 (ASP)
- 3) 高機能自閉症 (HFPDD)
- 4) 自閉症 (PDD)

→ 知的障害者と異なり、対処法を学ぶことなく、
母親から、教師から、叱られ続けてきた。

服薬で状態が悪化していったトラウマを持つ。

医療につないだ両親を恨み、何もできなくなった自分を呪う。

周囲は宇宙人のように見なし、理解を断念する。

「空気が読めない」という一律の言葉で誤解する。

発達障害者に手がかかる理由

3) 言語表現が乏しいうえ、拘りが強い→「パスポートは特性理解」

- 聴覚過敏
- 視覚過敏
- 触覚過敏
- 臭覚過敏
- 味覚過敏
- 同じ考えの反復。
- 過去の事実の写真のように鮮明なフラッシュバック

→自閉症児と同じパニック。自傷。破壊。暴力。

家族は、突然の変化に驚き、強制入院。

本人は、薬で鎮静をかけられても、イライラが強まるばかり。

発達障害者への悪い対処方法(例)

1) 気分を理解しない

不潔や数字への強迫、自分の顔への醜形恐怖、体感異常などの苦しい気分を、おかしなことと一蹴する

2) 叱る、否定

さんざん叱られてきた、「ダメ」「なんでわからないの?」などの言葉

3) 抽象表現、曖昧表現

言葉を字義通りに理解している。「むずかしいです」の言葉を、可能と受け取る

4) 後ろから声をかける

いろいろな音にまぎれて、視覚の応援がないと、自分に対する呼びかけが埋もれる

5) なんで相談せずにやった?と叱る

彼らは、幼少時から、「自分のことは、自分でしなさい」と教えられた

発達障害者への対処方法(案)

1) 減薬治療
薬害の払拭

2) 認知の改善

発達障害を、特性と理解し、得意な能力を伸ばすことに意識を向ける
→ 絵画や詩作、シナリオ作りなどに熱中するケース多い。数字も好き。

3) 環境の改善

40歳すぎても、仕事につけない、家を出られないというストレス
→ 生活保護を受けて独立することで、安定することが多い。
→ 障害年金が得られるだけで、通院に合意したケースもある。

4) 信頼し、味方となること

→ 家にこもっても、快適と感じていないことが多い。
不快感を理解し、生きる力を信頼する。
不快感を理解し、生きる力を信頼する。